

## スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大学名	奈良先端科学技術大学院大学
整理番号	B08
構想名	先端科学技術を担うグローバルリーダー育成のための世界水準の大学院大学の構築

### ◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b>A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本構想は、情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の先端3分野を統合し、異分野連携・融合の教育研究を展開していくことにより、先端科学技術分野におけるグローバルリーダーの育成と大学の国際競争力強化を目指す取組である。</p> <p>3研究科3専攻から1研究科1専攻への改組を進めるとともに、研究大学強化促進事業等と連携し、世界レベルの研究力を背景とする大学院教育プログラムの構築やガバナンス体制を含めた改革を行っている。また、司令塔であるIRオフィスを含む戦略企画本部の設置や運営組織の改革を進め、カリキュラム、キャリア支援及び国際展開担当のUEAやURAといった専門職員を各部門に配置するなど、学長主導でのマネジメント体制を順調に構築している。</p> <p>教育プログラムでは、「国際コース」を整備し、博士前期課程においても英語による授業のみで学位取得が可能となった。加えて、グローバルキャンパス実現のための留学生・外国人研究者支援センター(CISS)を設置した点も、構想の実現に向け着実に取り組んでいるものとして評価出来る。人事システムについては、年俸制やテニユアトラック制の導入や女性研究者に限定した公募等の取組、海外でのFD・SD(ファカルティ・ディベロプメント、スタッフ・ディベロプメント)研修を順調に実施している。また、英語力基準を満たす事務職員数は増加しており、事務局の全課・室に英語力基準を満たす職員を配置している点も評価に値する。入試制度に関しても、2018年度実施分より、TOEIC等外部試験の全学的な活用を決定するなど、構想は計画どおりに展開している。</p> <p>一方で、外国語力基準を満たす学生数が数値目標を下回っており、今後は理工系の学生であることを前提とする独自の英語(外国語)教育の取組が必要であろう。また、もとより先端科学技術分野はグローバルたるべきものであり、そのためには優秀な博士課程学生の確保が不可欠であることから、融合領域での教育プログラムという新しい方向性を活かし、グローバルに活躍出来る人材を着実に輩出してもらいたい。高い専門性で先端科学技術に係る教育・研究を担う機関として、科学技術人材の国際流動性という、日本の科学技術が抱える課題の解決に向け、他大学の参考となるような取組が今後示されることを期待する。</p>	